

講義 2 「東京のスリバチ地形を読み解く 有栖川宮記念公園から始まる冒険」

講師 皆川典久氏

・前提として、「スリバチ地形」とは東京スリバチ学会による呼称で、地理学上、地形学上の正式な呼称ではない

有栖川宮記念公園の地形と歴史

- ・典型的な谷戸地形で、2つの沢の水が池に流れ込んでいる
- ・江戸時代は盛岡藩南部家の下屋敷（池泉回遊式大名庭園）
- ・麻布七不思議のうち5つ（*）は凸凹地形に由来する逸話ではないか
 - 1) がま池 *
 - 2) 柳の井 *
 - 3) 狸穴の古洞 *
 - 4) 広尾の送り囃子 *
 - 5) 善福寺の逆さ銀杏
 - 6) 長坂の脚気石
 - 7) 一本松 *
- ・「町の窪みは海へのプロローグ」筈川は渋谷川に合流し東京湾へ至る

都内に点在するスリバチ状の公園

- ・白金自然教育園、明治神宮、赤坂御用地、東京大学本郷キャンパス、戸山公園など
 - いずれも谷間の底にある池は、江戸時代に大名庭園として利用されていた
- ・都心だけでなく武蔵野にも点在する谷（井の頭公園、妙正寺公園、善福寺公園など）

スリバチ地形の成り立ち

- ・武蔵野台地の標高 50m 付近には井の頭池など湧水スポットが点在
 - 武蔵野台地を流れる都市河川の水源
- ・東京都心にスリバチ地形が多い3要因
 - 1) 関東ローム層の存在
 - 2) 豊富な雨量
 - 3) 都市開発の時期
- ・「谷」は東京を理解するためのキーワード？ スリバチ状の谷戸が東京の個性をつくっている？
 - 東京はスリバチの都であり、「すべての坂はスリバチに通ず」

スリバチ地形が紡ぐ都市

- ・現代の東京の街は建物に覆われており土地の起伏が把握しづらいが、スリバチ状の谷間や窪地はいたるところに点在する
- ・永井荷風『日和下駄』より
 - 「坂と坂との差向ひが急激に接近していれば、景色はいよいよ面白く、市中に偶然温泉場の街が出来たのかと思わせるような処さへある」→谷間の趣きに関心を寄せている
- ・起伏豊かな地勢と町の様相は、ガイドブックには載っていない東京のもう一つの顔

- ・下町系スリバチ
 - 江戸時代には水田に利用されたり、町人地だった場所がその後も下町として発展
- ・山の手の台地
 - 江戸時代は武家屋敷や大名屋敷、明治以降は学校、病院、大使館、官舎など
- ・なぜスリバチは知られていないのか？
 - 主要な道(街道)は尾根筋を辿る。「わき道にそれてみたら、そこはスリバチだった」
- ・スリバチの第一法則
 - 建物の高低差は地形の高低差を強調している(都心では顕著)
- ・スリバチの第二法則
 - 地形的な断崖が町の境界をつくっている
- ・町なみの違いは建物のタイプに分けられる
 - 「屋敷型」 庭に囲まれた建物といった農家や大名屋敷の形式
 - 「町家型」 道路に対し軒を連ねる形式(伝統的な京都の町なみが代表例)
 - 崖を隔てて2つの建物タイプ、町なみが隣り合っている様子は、高い場所から眺めると一目瞭然
- ・なぜ京都は1200年もの間、都として栄え得たのか？
 - 扇状地ゆえに伏流水として湧き水や地下水に恵まれた
 - 排水のために適度な勾配(0.7%程度)を持っていた
- ・地形と水は、その町を知るキーワード
 - そして真実は、凸凹地形に隠れている。
 - 地形を手掛かりに、町の歴史を紐解く冒険!
 - 「スリバチをめぐる冒険は終わらない」